

## 令和4年度宮古市総合教育会議 会議録

1 日 時 令和5年1月10日(火) 午後6時から午後7時15分まで

2 場 所 市民交流センター2階 多目的ホール

3 協議事項

中学校の休日の部活動の地域移行について

4 出席者

・構成員

宮古市長	山本 正徳
宮古市教育委員会教育長	伊藤 晃二
宮古市教育委員会委員	荒谷 榮子
宮古市教育委員会委員	橋本 美紀
宮古市教育委員会委員	平井 亮吉
宮古市教育委員会委員	杉本 裕樹

・副市長

宮古市副市長	桐田 教男
--------	-------

・事務局からの出席者

総務部長	若江 清隆
企画部長	多田 康
教育部長	佐々木勝利
教育委員会事務局総務課長	中屋 保
学校教育課長	小松山浩樹
生涯学習課長	田中富士春
文化課長	北舘 克彦

5 傍聴人 一般：20名

令和4年度宮古市総合教育会議 議事内容

次 第	発言者	内 容
1 開会	佐々木教育部 長	ただいまから、令和4年度宮古市総合教育会議を開会いたします。私は教育委員会事務局教育部長の佐々木勝利と申します。会議に入るまでの間、本日の進行を務めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、会議の開会にあたりまして、山本市長よりご挨拶を頂戴いたします。
2 市長挨拶	山本市長	本年度の宮古市総合教育会議にあたりまして、一言ご挨拶をさせていただきます。伊藤教育長はじめ教育委員の皆様方には、日頃から宮古市の教育振興のためにご尽力をいただいております。まずは感謝を申し上げます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大から間もなく3年が経過しようとしております。いまだ収束には至っておりません。子どもから家庭内への感染も広がっているような状況でございます。また、今年はインフルエンザとの同時流行も懸念されています。マスクの着用、手洗いの徹底、3密の回避、こまめな換気、これらの基本的な感染対策を実施し、引き続き感染拡大防止に取り組んでまいりたいと思っております。ご協力をよろしくお願いいたします。本日の会議の協議事項であります。中学校の休日の部活動の地域移行について、今年度は協議事項とさせていただきます。よろしくお願いいたします。指導者の確保などの課題、中体連の考え方を受けまして、その方向性について、今日は議論いただきたいと思っております。市の教育行政推進のために、委員の皆様にはご忌憚のないご意見をいただき、方向性を定めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
3 教育長挨拶	佐々木教育部 長  伊藤教育長	<p>ありがとうございました。次に、宮古市教育委員会を代表いたしまして、伊藤教育長からご挨拶をお願いいたします。</p> <p>お集りいただきましてありがとうございます。先週、盛岡市で兵庫教育大学に関するセミナーの研究会がございまして、私も参加し意見を述べてきました。北海道から兵庫県までの小・中・高・大学の先生まで含めてお話をいただきまして、内容の大きな柱はコミュニティ・スクールです。私が提案したのは、本日の会議である中学校の土日の部活動についてお話をしてきました。どこの市町村でも、やはり来年度からの急な話に、とまどいがあるような状況でした。県内の市町村でも温度差があります。いち早く総合教育会議に山本市長のほうから指示があって今日のテーマにさせていただきました。今回は多分、ほかの市町村に先駆けて、ご意見をいただく機会を設けてもらいました。それに関わってコミュニティ・スクールも、地域との連携ということであれば、非常に関連性がございますので、本日は限られた時間ですけども、皆さんからのご意見をいただきながら、</p>

		この後の方向性を絞っていきたいと思います。どうぞよろしく お願いいたします。
4 協議事項	佐々木教育部 長	それでは早速でございますけれども、本日の議事に入ります。 議事の進行につきましては、宮古市総合教育会議運営要領第4 条の規定によりまして、山本市長に議長お願いいたします。
	山本市長	それではこの会議の議長を務めさせていただきますので、議事 の進行にはご協力をお願いいたします。それでは協議を進めま す。協議事項、中学校の休日の部活動の地域移行についてです。 それでは、教育委員会事務局より説明を求めますので、よろし くお願いいたします。生涯学習課長。
	田中生涯学習 課長	生涯学習課長の田中でございます。それでは中学校、休日の部 活動の地域移行についてご説明させていただきます。まず協議 資料の最後のページをご覧くださいと思います。国の動き をまとめています。令和4年6月、中学校の部活動は学校教育 の一環として、生徒がスポーツに親しみ、達成感や学習意欲、 責任感、実践などを育成する場として大きな役割を担ってきま した。しかし、少子化が進行する中、持続可能性という面で厳 しい状況が進んでおります。さらに、競技経験のない教師が指 導せざるを得ないなど、顧問を担当する教師にとって大きな業 務負担となっております。これらの状況を受けまして、スポー ツ庁は昨年6月に部活動の地域移行に関する検討会提言、文化 庁も8月に同様の提言を受けまして、休日の部活動から段階的 に地域移行していくとしました。その後、運動部文化部を合わ せたガイドライン案を策定され、目標時期として、令和5年度 から7年度を改革集中期間として、令和7年度末の実現を目指 すとされました。しかし、これに対して自治体から3年間の移 行達成は難しい、指導する人材が不足しているとの意見が相次 ぎまして、そこで昨年の12月末に、スポーツ庁と文化庁は目 標時期について、令和5年度から7年度を改革推進時期とし、 取り組みつつ地域の実情に応じて可能な限り早期に実現を目指 すと見直しを行ったところ です。以上が、現時点での国の示し ている方向性となります。それでは、宮古市内中学校の部活動 がどういう状況か説明してまいります。令和4年度市内中学校 の部活動の現状です。市内中学校には、バスケットボールをは じめ、9つの運動部、特設陸上部の計10部、それから吹奏楽 など3つの文化部があり、合計で1,067人が在籍しております。 その他、部活動に未加入の生徒たち36人の状況をまとめてお ります。硬式野球のポイズリーグ、サッカーの宮古SC、地 域クラブに所属している方、陸上競技、サーフィンに個人指導 を受けながら取り組んでいる方など18人、それ以外の18人 は特に活動はしていません。この後ご説明いたしますが、生徒

		<p>たちにとどまらず、市内全体の中学生たちの活動や価値観を大事にしながら、多様な種目競技等のレベルで活動できるよう、子どもたちの選択肢を増やすのが、教育委員会としての考え方です。次に、部活動指導者の状況でございます。多くは、教職員が顧問を務めておりますが、最初に申し上げましたとおり、教職員の指導レベルも様々ある中、生徒達によりよい指導を届けるため、それから教職員の負担軽減も考え、部活動指導員、部活動外部指導員、いわゆる外部コーチと言われる方々に指導を担っていただいております。部活動指導員は、市全体で、重茂中学校、田老第一中学校、川井中学校の3校に、それぞれ1人ずつ市の会計年度任用職員として教育委員会が任命し報酬を支給しております。部活動外部指導員は、市全体で10校に36人を各学校長が依頼し、無償のボランティアとして生徒の指導をしていただいております。ここまでが宮古市の中学校の現状です。次に、地域移行に向けたポイントとして、4点まとめております。受皿の確保です。今後、地域移行を進める場合に、指導を担っていただくことが想定される団体をまとめております。総合型地域スポーツクラブである宮古市体育協会、それからNPO法人エムジョイ、そしてスポーツ少年団です。文化部門では、芸術文化協会や、郷土芸能団体連絡協議会の指導者のマンパワーを活用していくことが、今後の地域移行に不可欠と考えております。また、地域スポーツ活動との連携、既に地域クラブとして活動している、硬式野球のボーイズリーグ、サッカーの宮古SCなど、そういった地域クラブとの連携も必要と考えております。次に、公共施設の活用、スポーツ活動の場として、宮古市には各学校開放、総合体育館を初め、様々なスポーツ施設があります。また、文化活動の場としては市民文化会館、各公民館や生涯学習センター等ございます。これらを活用していく必要があると思っております。最後に、中体連の考え方では、活動した成果を発表する場はどういう状況なのか説明しております。全国中学校体育連盟は、令和5年度から地域スポーツ団体、いわゆる合同チームの参加を認める方向で検討中でございます。今後、全国中体連の方向性が決まれば、県中体連、地区中体連も同様に動く見込みとのことです。これが進めば、合同チームについても、発表の場は確保されます。宮古地区中体連は、競技によっては合同チームの活動も行いながら、各競技協会等に受け皿になってもらい、指導者の派遣をしてもらいたいとの意向ということでございます。今、申し上げました4つのポイントをクリアしていくことで、今後目指す姿を図にまとめましたのでご覧ください。議論のポイントになります。今回の地域移行でございますが、現状の生徒の部活動の場を確</p>
--	--	---

		<p>保していくことにとどまらず、生徒に多様な選択肢を与えていくべきと考えております。単独校チームで活動できるようなソフトテニス、バレーボール、バスケットボール等、また合同チームで活動している軟式野球、ソフトボール、サッカーなどは、単独チーム、合同チームは基本的に学校を拠点に活動していくと。それら以外の種目、例えばラグビー、陸上競技、文化部門でいうと郷土芸能等は、各協会を中心に、地域クラブも含めて受け皿となり、先ほど申し上げました公共施設などを活用しながら活動を展開するというございます。現状、既に活動している地域クラブや各協会ともうまく連携しながら、生徒が希望する多様な選択肢をできるだけつくっていく。子どもたちの興味関心を伸ばしながら育てる。今後の地域移行の中で、教育委員会が目指す姿をあらわしたのが、このイメージ図になります。以上ご説明いたします。ご意見よろしく願います。</p>
	山本市長	<p>説明ありがとうございました。それでは各教育委員の皆さんから、ご意見を伺いたいと思います。荒谷委員よろしく願います。</p>
	荒谷委員	<p>中学生の部活地域移行は1つの改革と捉えました。タイミングはやはり少子化の進行、教員の働き方改革などがあると思います。地域移行することによって、中学生はいろいろなスポーツ体験ができる良い機会になると捉えました。今回の議事はとても難しかったです。私は原点に戻って考えた時、やはり部活動は生徒が主人公です。その辺を大人が動揺することなく環境整備すべきだと思います。次に、休日の部活動を実施する地域団体等の確保について説明もありましたけれども、私は、休日の部活動は必要だと思います。部活動は当然、生徒による自主的な課外活動と考えています。強制的な加入はしないことは言うまでもありません。学校の先生の手を離れ、地域の方々に任せるのは非常に大切なポイントだと思っていますし、私もできるだけ協力していきたいと思っています。文化的活動についても同様の考えです。部活動は、教科書には載っていない、教室では学ぶことが出来ない、人間力を育てる力があると思っています。自分自身の過去を思い起こしてみると、自分のよさを再発見したり、友達と対立したり妥協したり、いろんなことで悩んだり、それが大人に向かって人間力を高めてくれるものだと思います。次に、外部コーチについてです。宮古市で、毎年4月にある市民総合体育大会の開会式を見て、宮古市はコーチ、指導者がいるのを確信しています。体育協会、スポーツ少年団、芸術文化協会、郷土芸能連絡協議会などと連携を取り合って、宮古市の子どもたちを育てたほうがいいと思います。外部コー</p>

		<p>チについては、新しい時代の生徒の接し方や指導方法などについて研修の場は必要と考えます。次に財源です。外部コーチの person 費、保険代、交通費、会費、まだまだあると思いますが、細部まで洗い出して、財源の確保をすることが大事だと思います。もちろん、保護者の負担は出てくると思いますが、できるだけ抑えてあげたいと思います。また、経済的事情がある生徒への支援も忘れてはならないと思います。活動の場所については、宮古市の体育施設、各学校の体育館解放事業はとても充実しています。ただほとんどが有料なので、宮古方式で免除できないか提案したいと思います。私からは以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。それでは、平井委員お願いします。</p>
	平井委員	<p>私は、今年度でラグビースクールのコーチはやめました、10年ラグビースクールに携わっておりまして、以前から話に出ていましたが、この度11月に中学・高校の連携の話合いがあり、小・中・高校の先生方も含め集まりました。高校生の登録人数は平成4年のピーク時に5万4868人、令和4年に1万8304人と3分の1に数が減っていて、合同チームは93チームです。小学校のスクールは勝利至上主義でなく、楽しむラグビー、怒らずにラグビーのルールを理解してもらう指導です。高校で勝利至上主義に変わるのをお任せしますということで、先日話し合っ、来年から動き出そうと決まりました。現在、当ラグビー協会から出しているラグビースクールのコーチのスキルはとても細かく分かれていて、カリキュラムは現状にフィットしております。指導方法等細かく決められているので、規則はしっかりしていますが、残念ながら競技人口が少ない分、私たちの底上げが必要になっています。中学校に上がる段階で皆、コンタクトプレーが怖いので辞めて、サッカーを始めたりしています。サッカーの良さも分かります。親御さんの送迎も必要なので、街から離れた子どもたちの移動交通費の補助をしても良いかと思ひます。コーチの資質については、ジャッジする機関が欲しいです。コーチにお任せしているのが現状だと思うので、年度末に会議を開き反省点と改善点をジャッジできる機関があれば、一番助かります。また、部活を指導したい先生方の指導の場を取り上げるのもかわいそうだと思います。また、ラグビースクールを立ち上げた際、親御さんは学校の評価を気にしていました。学校の部活に属さない活動で学校の評価が下がり、進学時のマイナスを心配されていました。私がラグビースクールに関わって気づいたのはその点です。以上です。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。橋本委員さん</p>
	橋本委員	<p>議題について考えるに当たり、私も過去を振り返りました。部</p>

		<p>活の定義は変わらないけども、取り巻く環境が余りにも大きく違うので、今までの常識が通用しないことを痛感しました。切替えないといけないと思っています。議題についてですけれども、1つ目、地域団体、外部人材の確保ですが、4つほどあります。現在の外部コーチに関しては感謝しており、継続していただきたいです。2つ目、他の地域団体は、アプローチは様々な方法があると思いますし、協力が必要なので打診してほしいです。3つ目、現在3名いらっしゃる部活動指導員の増員です。外部コーチは単独で学校外活動の引率が出来ないなので、結局先生が引率しているのが現状です。負担軽減のためにも増員が望ましいと思います。ただ、検定や自治体の必須条件をクリアする、仕事内容も容易ではないので、職業として確立させ、求人募集をかけて増員も良いと思いました。4つ目、市役所職員の方で競技に精通した方がいらっしゃると思うので、ご協力いただけたら嬉しいです。特設陸上部があるように、教育委員会に部署として、課の設置を個人的に提案します。2つ目、技術力、指導力についてです。コーチの指導のほかにDVD、YouTube、タブレットの活用、体育大学等からリモートでアドバイスを受けるなど、体を動かすだけではなく、イメージトレーニングが大切だと思いますので、様々なツールの利用も良いと思います。3つ目、人件費・運営費について、部費として集めている中から、謝礼として支払われていることが多いようです。ただ、金額のアップ等この時勢ですので、大きな変化は難しいと思っています。施設の確保や移動についてですけれども、屋外競技は冬季に、閉校した学校の体育館利用を提案します。ただ、移動についての問題は、一概に言えませんが、徒歩圏外であれば、保護者の送迎が必要だと思います。先ほど説明があった、部活動未加入生徒について、崎山中学校と河南中学校でヨットの活動しているようです。地域移行について、選択肢がふえるのは、活動の幅が広がるのでとても良いと思います。ただeスポーツのように、ゲームかスポーツかの判断が難しいものもあるので、線引きが必要だと感じます。部活動未加入の生徒が増える可能性もあるので指導の必要性も十分あると思います。ただ身体的に参加出来ないのは別ですけれども、指導が必要かなと思います。次、お話しするところが間違っているのであれば訂正していただきたいんです。地域スポーツ団体全競技が、中総体の参加が認められることになり、宮古ではサッカーチームが、中総体に参加するようですが、今後、学校同士の対決よりもチーム対決に移行していくと思います。最後に、部活動の地域移行については、生徒、保護者に誤解のないよう、趣旨現状を理解してもらい、今まで同様子どもたちの支えになり、</p>
--	--	---

		令和5年度が部活動の新たな年になる事を期待します。以上です。
	山本市長	はい、ありがとうございます。それでは、杉本委員お願いします。
	杉本委員	地域移行では、特定の種目だけではなく、種目を増やし多様な選択肢を作っていくイメージがあるようですが、余りにも多様な選択肢があり過ぎても、子どもに混乱を招いてしまうと思います。部活動に所属していない子が居ますが、部活動をやりたくないけども、体を動かすことには興味がある子であれば、1つ新しい部活動があってもいいのかなと思っていました。例えば、体育協会で行っているエアロビクスとか、エクササイズ系の運動を、取り入れていければ良いと思いました。また親御さんも一緒に体を動かす機会も増えてくれば、非常にいいことだと思います。また、地域の持続可能で多様なスポーツ環境を一体的に整備していく機会も必要だと思います。小中学校一貫指導等の取り入れも良いと思います。小学校高学年になると、色々なスポーツに取り組むと思いますが、これが中学校の部活動につながってくると思います。そういった部分をお手伝いできるように、小学校の高学年ぐらいから、希望スポーツの聞き取りや、先生から適正スポーツの推薦機会が増えてくると、非常に良いと思います。それに伴って中学校で、陸上、サッカー、野球、様々なスポーツに取り組んでいくのも良いと思います。そういった可能性を秘めている生徒達なのかなと思います。また、新たなスポーツの環境を整備していくのも良いと思います。大人数競技は男子のみの編成ではなく、男女混合チームにすることで少人数の学校であっても、1つのチームを作れるので、そういう取り組み環境も増えていくと思います。文化部、郷土芸能の保存に関しても、活動として取り組んでいくのは良い事だと思いますし、宮古市民劇を、1つの部活動として取り入れるのも良い事かと思います。スポーツの関わり方は色々ありますので、選手ではなく審判員やマネージャーとしてスポーツに関わりたい子には勉強や資格取得の場を設けてあげるのも、多様な選択肢の1つになってくると思います。その他財源は、皆様と同じで施設の使用料を子供たちのために還元していくのが良いと思います。以上です。
	山本市長	ありがとうございます。それでは教育長お願いします。
	伊藤教育長	今4人の教育委員さんのご意見いただきました。私も中学校の教員として振り返ると、1970年代、部活動が盛んになってきて教員の長時間労働が話題になった時期があります。その時期で、受皿として模索した結果わかったのは、地域に受皿施設



		<p>がなく指導者がいないので、論議は立ち消えになりました。それ以降、今回のお話しになっております。学校が受皿としてきた歴史があり、大きな負担感はありましたが、大きな成果も意味もありました。教員の働き方改革の中で話が流れてまいりましたので、皆さんでご意見いただく機会が増えたと思っています。先ほど平井委員さんからあったとおり、部活動の成績によって、中学校3年生が高校進学調査書等に反映されるのもありましたが、この後高校改革のすすめでは、この点もかなり改善されると思っています。土日の部活動の在り方が議題になっていますけども、実際は平日の部活動も模索中です。平日各学校では、1チームに満たない種目もありますけども子どもたちが自主的に、そして顧問の先生の指導のもとに、活動しています。文部科学省の提言は、子どもたちに主体的で対話的で深い学びをしましょうとありますので、まさにこれも主体的で対話的で深い学びができる部活動の在り方が問われると思います。まず平日の部活動どうしたらいいか、平日と土日に1日休養日があります。ただ土日に練習試合をすれば、平日2日休養日の設定があります。それも含めて、中体連でも議論していると思いますけど、まず学校から部活動が離れるということは非常に大きなマイナスだと思います。今まさに地域連携を強く求めているのはコミュニティ・スクールです。ですから、コミュニティ・スクールとリンクして、平日でも、外部コーチなり、あるいはボランティアの方をどんどん学校のほうに招き入れて、親御さんも一緒にやっていくスタンスが良いでしょう。土日についても、いろんな先生方の権限もありますが、そこをクリア・連携するために対話していきながら子どもにとってどうしたらいいか、議論ポイントのイメージ図がありますけども、実際、岩手県の各市町村でも、実態把握を来年度から行う動きです。ですからこういうふうに見解を皆さんで、出し合いながらいろんな関係者とも議論しながら、どこが軟着陸できるか、ランディングする場所を3年で進めていくのが1番いいなと思いますので、たくさんのご意見いただきたいと思ひますし、学校の在り方を問われるような状況だと思ひますので、今日たくさんのお聞きになられている方もいらっしゃいますので、その辺、結論はまだ出ないと思ひます。いろんなお話し合いをしていきましょう。私は地域連携をするいいチャンスだと思ひますので、ぜひそこは、校長先生のリーダーシップのもと地域の方を巻き込んで、どうしたらいいか話し合いのスタート地点に立ったと思ひますので、ぜひまたご意見等いただきたいと思ひます。以上です。</p>
	山本市長	はい、ありがとうございます。まさに議論が始まったばかりな

		<p>ので本日でまとめるのは難しいと思います。ただ全員での共有認識事項は、今教育長が話したように子どもの教育が変わることです。今まではみんな学校任せでした。教科の指導はもちろんのことですけど、部活動まで全て学校任せだったものを、地域も一緒になってやっていかなきゃならない時代背景になったと私は思っています。それは少子化が要因です。1つの学校でやれる事柄が違ってきているのだと思います。今まで、学校単位で、教科の学習も、部活動も、生活に関わる事まで学校で教えられた時代から、少子化になり学校でやれる内容が少なくなりました。出来ない部分のカバーは、複数の学校、地域が集まって教育しようが変わってきました。それから、今まで学校の先生に任せる教育だったと思います。このような状況になり、教師の負担が増加していることに、もっと本当は前から気づくべきでしたし、気づいてはいるながらも実行に移していなかったと思います。ですから少子化、教師の負担が大きいことを、ここでしっかり解決していくために、部活動を通じながら取り組む動きが国自体から出てきたのではないかと考えています。これはぜひ早急に取り掛かり、みんなが納得した上で取り組まないと、うまくいかないで、1つ1つ解決していきたいと思えます。教育長のほうからお話があったように、まず1人1人の子どもの状況、実態を把握し、そして部活動、教科以外の、子どもたちが勉強しなきゃならないものを、もっと洗い出し整理して、それに対応できるような状況にしたいと私は思っています。おそらく教育長や皆さんも同じだと思いますので、その点について、もう一度学校側にも学校長をはじめ協力いただいて、子どもたちがどういう状況かを把握し、方向性を考えたいと思います。そこで、まずはどうするかという話になると思います。マンパワーの問題。指導者の問題、それから地域がどういうふうを抱えるのか、問題はありますが、まずは指導者ということで、教育委員の皆さんから、指導者の理想人物像、あるいは指導者を確保するための方法をお話いただきましたが、指導者・子どもの教育をしてくれる人を、どのような形で求めていけばいいのか掘り下げて考えたいと思います。橋本委員さんいかがですか。</p>
橋本委員		<p>子どもがテニス部だった時に、男子テニス部のお父さんがとても熱心で、全ての試合に毎回参観していたので、熱心な父兄がコーチならと思ったことがありました。</p>
山本市長		<p>杉本委員はどうですか。</p>
杉本委員		<p>はい。効率的なのは各協会です。宮古市にはスポーツ団体があるので、連携を取った上で、指導者の派遣環境を整えていくのが良いと思います。また、地元の企業に連携を取ってスポーツ</p>

		に長けた従業員との連携、理解を求めて協力をいただく方法もあると思います。
山本市長		はい。平井委員さん。
平井委員		私も杉本委員と同様ですけど、退職された教員の方やその競技に特化された先生方もいると思います。一律で外部コーチの研修を教育委員会で用意して、それに準じていただくような流れが良いと思います。
山本市長		荒谷委員。
荒谷委員		私も、杉本委員さんが言ったことに大賛成です。私はただ単純に、募集をかけても応募があると思います。以上です。
山本市長		教育長。
伊藤教育長		はい。まず部活動に関わる方々の前提とすれば、子どもたちの中にも一生懸命やりたい子とそうでない子、先生方も一生懸命、土日関係なくやりたい先生と、そうでない先生、親御さんも同じです。一生懸命サポートしたい親御さんもあれば、できない方もいると思います。その中で指導者の位置づけが1番大きいと思います。私はやはり平日の部活動は先生方がまず対応してもらって、土日に関しても、一生懸命やりたい先生はどんどん入ってほしいです。先ほど杉本委員さん、平井委員さんがおっしゃったように協会の方も巻き込んで、同じ共同体でみんなが集まっているいろんなジャンルの人が集まる仕組みを作っていくのが1番いいのであって、これが地域連携の柱になると思います。それで、先生方の負担感云々ありますけど、やっぱり私も中学校の教員とすれば、土日参加しても、忙しいけど多忙感を感じなかった時代がありました。今は価値観が違いますが、先生方も巻き込んで、さっき橋本委員さんおっしゃったように親御さんを巻きこんで、やりたい方いらっしゃいます。先ほど、提言があった市役所の職員も含めて、民間の会社の方々にも現状報告と、学校の応援団になってほしい旨の呼びかけ機会をどんどん設けていけば、指導者もある程度確保できる気がします。ただ、スポーツ運動部と違って、文化芸術のほうは数的にも少ないので、個別のお願いをしたいと思いますけども、取りあえず学校の先生を中心に協会の方と一緒に取組むことで、人材については確保できる気がします。以上です。
山本市長		はい、ありがとうございます。人材に関して、しっかりした人になってほしい、あるいはサブ的に加わってもいいという人がいたりして、様々あると思います。ただ、核になる人は、やはり部活動指導員のようにしっかりとした制度の中で、報酬も支払いをして、やる人をつくっていくのが私の役目だと思っています。様々な財源の問題とか出てきます。あるいは、交通手段をどうするのか。みんな集まる場所まで行くのに土日であれば

		<p>親御さんで、あるいはそれでも出来ないような場合はどうするのかというところ、これは私の役目だと思っています。ただどういう形でやるかは、教育委員会がしっかり考えていただきたいと思います。先ほどからお話があるように、体育施設や芸能、芸術活動する場所は揃っていると思いますので、若干、足りない地域もあるかもしれないですけど、それぞれにやれるところはたくさん出てきていますので、それらを十二分に活用しながらやっていただければと思っています。それらを、教育委員会で構築していただいて、それによって財源がどれぐらい必要なのか、制度をどうすればいいのかは市長部局で考えたいと思います。これらも含めてやはり各学校の校長先生はじめ、教員の方々ともしっかり話合いをしてその中で決めていくべきだと思っています。基本的には教育長が言ったように土日は地域みんなで集まって活動し、平日は学校内で体力を付けたり、基礎運動をやる。楽器であれば平日は個人レッスン、土日は合奏と、すみ分けをしながらの活動でも良いと思っていますので、ぜひ構築していただきたいです。その他ありませんか。荒谷委員さん。</p>
	荒谷委員	<p>私は、以前から考えていた案がありまして、例えば中学生の部活動に高校生を参加させたいです。コーチとしてではなく、後輩を育てるアドバイザーのように、強制しないで参加できる高校生がいないのかずっと考えていました。中学生は、高校生に憧れたり、高校生は後輩に自分の得意な部分を見せたり、いい人間関係ができると思います。以上です。</p>
	山本市長	<p>教育長。</p>
	伊藤教育長	<p>今、荒谷委員さんから指摘があった高校生の関わりは、既にソフトテニス小山田のテニスコートで中高生混ざっています。試合の進行についても、高校生が協会をサポートしています。ですから、例えば協会が、小中学生の活動の場を協会の方を中心に高校生も一緒に活動する。もう既に行っている協会がありますし、あるいは剣道協会、柔道協会も、協会一丸で小中学生の指導体制をしっかりしていますので、私のイメージとすれば協会の方々も、ある程度早めに移行措置が可能だと思います。ですから、協会の方を巻き込んでいく、先ほど平井委員さんが話したラグビー協会も同様です。歴史があるジュニア卓球についても、他の地区に比べて宮古市はある程度アプローチするための協会がしっかりしているので、ゆっくりお話をしながら移行措置が十分あると思います。教員のやってみたい方も平日土日関係なく参加してもらい、当然そうなれば、報酬も出てくるので、その制度づくりは、これから市長部局とも協議しながら、予算関係は市長も含めて、まず指導員については、大体</p>

		めどが立つと思います。予算的な面、財政、人的な面については切離しながらですけども、来年度からさらに深掘りできると思います。今、荒谷委員さんおっしゃった中高一貫活動は、この間の全国サッカー大会やラグビーもそうですけど、実は中高一貫校がほとんど上位です。中学生が高校に行って練習試合、あるいは必要スキルを教えてもらえます。中高生が切磋琢磨し合えば運動のみならず学業面でも大きな効果があります。ですから、小中一貫より、子どもの発育発達からみれば中高一貫のほうが非常に大きな成果を上げられますので、県内でいえば、県立一関第一高校の附属中学校はいろんな成果上げているので、それもイメージしながらこれからは、できるだけスポーツの面ではさっき言ったソフトテニスの協会ですっかりわかっている高校生も同様に、やれる機会があるような気がします。そこは十分我々も配慮したいと思います。以上です。
平井委員		先ほどの補足でラグビースクールも、特設の時だけですが中高生の連携をとり、高校生が中学生にポジションごとの指導を行っています。
山本市長		荒谷委員どうぞ。
荒谷委員		では平井委員さんに質問ですが、その成果を聞かせてください。
平井委員		高校生にもちゃんと優しく教えるようにと伝えると、優しく教えてくれます。高校生は優しいです。競技を続けて欲しい気持ちがあるので、それは子どもたちとも共有できます。
山本市長		杉本委員さん。
杉本委員		はい、先ほど教育長から中高一貫教育のお話がありましたが、小学校から中学校への連携を取り入れて、岩手県で行っているスーパーキッズ育成事業などでは、小学5年生ぐらいから、適正を見ていただいて、あなたはこういうスポーツが向いているよというアドバイスをいただきました。残念ながら私の息子は、判定が、ハンドボールとフェンシングと言われ、やる環境がないスポーツだったので、陸上1本にしました。そういった形でいろんなスポーツに関われるような、市としての事業があってもいいのではないかと思います。
山本市長		橋本委員さん。
橋本委員		スポーツを早いうちにスタートするのが良い話を聞きます。例えば学童で学校にいる子ども、中学校との連携もあったほうが中1ギャップや、部活にスムーズに参加できるので、小学校と中学校の連携が必要だと思います。先日宮古西中学校と千徳小学校の発表がありましたが、部活の話ができるかなと思ったんですが聞けませんでした。やはり小学校高学年と中学校の関わりが必要だと思いました。以上です。
山本市長		はい、ありがとうございます。今までの学校内の活動だけな

		<p>く、部活動を通じて外部との関わりが出てくるのではないかと期待しています。ですから、学校の部活動が、外に出て、クラブ活動することによって、その周りの人たちも一緒に活動していくのも、子どもたちが成長していく過程の中で、新しい教育が芽生えてくるのではないかと思います。少子化の中で出てきた取組みですけれど、子どもを育てる上でうまく使っていく制度という感覚で捉えれば良いのではないかと思いますし、協会のパイプ役を期待しています。私も中学生の時野球部で、高校生と練習試合をした記憶があります。高校生のプレーに慣れていくと、試合で臆せずプレーできましたので、外に出るのはチャンスですし、ぜひそれを活用できれば良いと思います。指導者も確保しながら、指導者だけでなくそれをサポートする地域の人たち、父兄を始め、彼らが今度は大事な先生になるので、そういう人達にも関わりながら、町全体で子どもを育てていく、宮古っ子を育てていくことに、つなげていけばいいのではないかと感じています。それを引っ張ってくるのは教育委員会でございますので、各学校と一緒に頑張っていたきたいです。私はそれに関わる財源の協力を行います。そのほかに何かありますか。教育長。</p>
	伊藤教育長	<p>東日本大震災のときには、学校は復旧の要になったと思います。子どもたちの居場所であることと、地域の方々がそこに避難しました。各地区の様子を聞くと、地域の方は、避難してきて学校の子もたちと触れ合いがあり、今でも継続している地域もありますし、やはりもう1回我々が学校の役割を見直すいい機会です。地域の方とともに先生方、保護者も含めて学校の在り方を問われるような良いチャンスだと思いますので、これを機会に地域の方にもっと入ってもらいましょう。そして、これは教育政策とも全く矛盾しないので、やはり皆さんが、地域のサポーターとして学校に来てもらう。子どもたちも地域みんなで育ててもらえるように、オール宮古でいいと思いますし、当然、スポーツ庁も含めていろんな学校単位の部活参加を認めるだけでなく、広く、広域であると思いますので、地域連携大きな柱の中でこれは逆に言えばいいチャンスだと思います。ご意見いただいて、財源は市長のお力添えをいただきながら、皆さんよろしく願います。</p>
	山本市長	<p>はい、ありがとうございます。教育長にまとめていただきました。そういう方針で、みんなで頑張っていきたいと思います。子どもを育てること、そこで働く方々の働きやすさ、そしてこの地域で子どもをみんなで育てる。学校任せでなく、みんなで育てる姿勢で宮古市は進めてまいりたいと思います。そのきっかけが部活動です。学校から離れて活動することをきっかけに、</p>

		動いていけばいいのではないかと思います。その他ご意見はよろしいでしょうか。それでは、今回はここで締めたいと思います。それでは、教育委員の皆さんにも、これからその構築に向けて頑張っていたきたいのでどうぞよろしくお願い致します。今日はありがとうございました。
6 閉会	佐々木教育部 長	はい、大変貴重なご意見ありがとうございました。以上をもちまして、令和4年度宮古市総合教育会議を終了いたします。大変お疲れさまでした。